基督を何と思ふや
天の門
古井の傍
インブリー

特
7

020420-000-0

特62-761

基督を何と思ふや

ウヰリヤム・インブリー／著

M35

ABI-0229

28-57
特62
761
746
239

What Think Ye of Christ

William Imbrie

基督を何と思ふや

ウ井リヤム、インブリー著

時既に至るに及びて神その子を道はしめ給へり

父の外に子を知るもの無くまた子および子の願はす所のもの外に父を知るものなし

我を見しものは父を見しなり

子を信ずる者は窮なき生命を得

基督を何と思ふや

ピリピの方に至りし時ヤコブスカイザリヤの弟子に問ふて曰けるは人々は人の子を誰といふや彼等曰けるは或人はバプテスマのヨハネ或人はエリヤ或人はエリミヤまた預言者の一人なりといへり彼等に曰けるは汝等は我をいひて誰といふやシモンペテロ答けるは汝はキリスト活る神の

内務・明治三十三

子なり（馬太傳十六の十三より十七）

今を去ること二千年、亞細亞大陸の西南隅に當る地中海の東岸に一人の不思議なる人物が現はれた。その不思議なる人物とは即はち今日世界萬國にれいてナザレのイエスとして知られたる人である。曾つて此の如き人物が正しく世に出たといふ事、彼は羅馬帝國の宗教と文明とを一變したといふ事、又現在に於ても彼は尙人間社會の一大勢力であるといふ事は誰も拒む者はなからう。然し此に一つ人々の意見の未だ一定しない点がある。それは即はち此人の子と自稱したるイエスキリストとは果して何人であるかといふ舊問題である。

彼は只一人の人間であつたか。彼も亦盛者必衰の法を免かれず、一たびは榮え終には衰へた一人であつたか。彼が十字架はその生涯の悲劇的結末であつたか。若くは彼は天來の人即はち世に降つて人間に寄寓したる人であつたか。一体此人の子とは何者であらうか。

凡て新約書中に記載してある事を信ずる人に取つては此問題に對する返答は明瞭確實であつて、更に疑は無い筈である。然し世間には未だ新約書を信じ得ない人がある。彼等は新約書中には訛傳も雜つて居るであらうと考へる。トマスの如くに彼等は疑惑を懷て居る。此の如き人の爲には此

本文即ち人々は人の子たる我を誰とするやといふ疑問に就いて聊か思ふ所を説のは敢えて無益の業で無からうと思ふ。全体イエスは彼に接近したる所の同時代の人の心に如何なる感想を起させたか、之を研究して見たいと思ふ。新約書中にはキリストに接近した同時代の人物が數多見て居るが、紙面に制限があるゆゑ、悉く之を列擧する譯には往かぬ。其中から只二人だけ擧る事に致さう。そうして其一人は洗禮のヨハネである。

さてキリストに對するヨハネの證明を正當に理會するには、先づヨハネ其人の何物たるかを記憶せねばならぬ。彼れヨハネは風に動かさるゝ葦でもなく、美服を着たる人でも

ない、死を犯してヘロデ王の不義醜行を譴責したる義人である。彼は斯くの如く偉大高潔なる人物である故にイエスは實際彼が弟子であつて其類に倣ふたものでは無からうかと疑ふた者もある位の事である、イエス自らも彼に就いて、婦の生みたる者の中未だヨハネより大なる者は起らざりきと言給ふた事がある。實に彼はユダヤ國の歴史に異彩を放つて居る古預言者の一人即ち眞理の爲、正義の爲、神の爲には滿天下に反對して立つた人物の一人である。然らばヨハネはイエスを何人と爲しましたか。

ヨハネの眼中に在てはイエスは遙かに卓越したる者であつて彼自身は跪づいて其履の紐を解くにも足らぬ者であ

ると做した。ヨハネはイエスを以て彼の周圍に群集したる人民中に在つて一種特別の地位に立つ者と做した。元來ヨハネはユダヤ國民に對して一個の使命を帶びて來たもので、凡て來る者には洗禮を施したがその洗禮を受る者は必らず己の罪惡を自白する者に限つた。然るにイエスの己に來るを見ては我こそ汝より洗禮を受くべき者なるに汝反つて我に來るかと言ふた。ヨハネの眼中に在てはイエスは唯自己の罪惡を自白するの必要なきのみならず、世の罪を負ふ者であつた。自ら洗禮を受くるの必要なきのみならず、更に新しい高等なる洗禮を人に施さんとする者即はち水ではなく神の聖靈を以て洗禮を施さんとする者であつた。

彼は來らんとする者即はちイスラエル人の千數百年來期望して居つた者、異邦人の光明、イスラエル人の榮光であつた。洗禮ヨハネの眼中に映じたるイエスの人物は此の如きものであつた。

洗禮ヨハネがヨルダン河の岸に立て悔改の教を宣傳へた少し前若くは後の事にタルソより一人の年少なユダヤ人がエルサレムに上つて來た、彼はタルソのサウロといふ青年であつた。タルソの市は當時希臘文學の叢淵として有名の地であつた。けれども此年少のユダヤ人の心は常に崇拜仰慕の念を以て大王の都たるエルサレムの方に向つて居た。彼は系統正しきユダヤ人の家に生れ幼少の時より潔白

なる心を以て神に仕へた者であつた。然かもパリサイ人の子で、パリサイ宗の大家ガマリエル先生の門弟で、自身も最も嚴重なるパリサイ宗の一人であつた。

最初サウロの意見ではイエスは自ら欺く者か又は人を欺く者か孰れかでなければならぬと思ふた。夫れ故に其弟子を退治するは即ち神に對する義務であると思ふたのである。彼は其頃既に集議所の議員であつた樣に見える。然し其れは兎もあれ、彼は將に蔓延せんとする異端退治に就ては最も熱心な主唱者の一人であつたに相違ない。ステパノが石を以て擊殺された時にもサウロは之を是認した。凡てイエスの名を呼ぶ者の仇敵として彼が評判は外國の邑々へ

も響渡る程であつた。彼自身にも我は曾つて神の敎會を迫害した者であると明言して居る。

されば當時の人物中に於てサウロ程甚だしくイエスに反對した者はなかつたのである。彼が敎育も、周圍の事情も、一身上の利害も、殊に彼が如き人物に取つては凡て此等のものより最も大切であつた所の彼が確信も、悉く皆彼がイエスの弟子となる事には反對であつた。それ故に彼がキリスト信者に成つたといふ風說を聞いても敎會は之を虛說として容易に信じなかつた。その正しく信者の仲間に入らうと試みた時にも彼等はまだ疑惑を懷いて居つて、彼が改心の顚末を聞取るまでは安心しなかつた。或極端なる批評家

の一人も彼れサウロの改心は一の謎語であつて、自分は未だ之を解くことが出來ないと白狀した。實にサウロの改心は一の大なる謎語であるが、此謎語はサウロ自身が解いたより外に解方がないのである。然ちば其解方は如何であるかとなれば、神その子を我に顯はし給へりとの一言の中に籠つて居る。ダマスコに往く途中に於て一次イエスを見て以來彼は全然別人になつた、迫害者が一變してイエスの弟子となり、極めて狹隘頑固なるユダヤ人の代表者が異邦人の使徒となり、最も嚴重なるパリサイ宗人が國中至る處罵詈讒謗せられた教派の中に身を投じ、タルソのサウロが變じて兄弟サウロになつたといふ譯である。而も此變化は永

久易らざる變化であつた。此時より彼は身を終るまで、極暑酒寒を冒し、ダマスコの邑よりロマの大都に至るまで、エルサレムの聖殿に於ても、アレオ山の上に於ても、ロマの獄中に於ても、或は捕へられて獄に繫れ、鞭れ、或は無知の暴徒に打擊せられて死に頻し、或は難船に逢ふて飢渴に迫り或は罵詈せられ、讒謗せられ、其患難困苦の情態は名狀することの出來ぬ程であつたが、彼は其間終始一日の如く曾つて自ら輕蔑した所の信仰の道を宣傳して休なかつた。然かして彼れパウロは此人の子は何者ぞやとの問題に對して何と云ふて居ますか。

キリストを識りキリストに知らるゝの榮光に比ぶる時は

家柄も富貴も權勢も數ふるに足らず、キリストの爲には凡て此等のものを損とせりと彼は斷言した。キリストを識る者に取りては奴隷となつて鐵鎖に繋がるゝも厭はざる場合がある。キリストは平和翼望歡樂正義の本源であり、その恩寵は人智の及ばざる所の恩寵である。如何なる長久の時間も、遠長の距離も、如何なる地上の勢力も、地球以外の勢力も、キリストの愛より其弟子を離すことは出來ぬ。キリストを信ずる者は新き世界に入り、新たに生れ、新たに造られた者である。キリストは天上の榮光を棄て此世に降り吾人の爲に一身を犧牲に爲し給ふたのである。此十字架に比ぶれば何物も賞讃嘆美するに足るものは無くなる程である。キ

リストは自からを卑くして人と成給ふたが、その世界萬民の救主と成給ふたのも亦自からを卑く爲給ふたのである。何なればキリストは元來天の榮光を有する方である。イエスがタルソのサウロに與へたる感想は大凡此の如きものであつた。

イエスは人々は我を誰とするかといふ問に對する答を聞いてから、然らば汝等は我を誰と爲すかと尋ね給ふた。處がペテロは汝はキリスト活ける神の子なりと答へた。キリストは之に答へてヨナの子シモン汝は福なり、そは血肉汝に示せるに非ず、天に在す我が父なりと賞給ふた。

イエスの此答に由つて茲に今一の思想が浮んで來る。

それは即ちキリスト自身の証明といふ事である。

キリストは自分の事を語る時には何時も自己は凡て他の人と異なれる者として語り給ふた。曾つて聖殿の中に立ち祭司長老等に向ひ汝等は此世の者なり、我は此世の者に非ずと明言し給ふたことがある、イエスは眞實「人の子」である。然れども汝等は人の子を誰と爲すかといふ質問の中に彼は人の子以上の者であるといふ意味が自から含まれて居る。然らば此人の子は果して何者であらうか。

さて此問題を研究するには先づ第一に約翰傳福音書に就いて研究するのが當然の事の樣に思はれる。何なれば此福音書は著者の明言する如くイエスは即はち神の子キリストなることを證明する爲に錄されたものである。然れども或學者の中には約翰傳は使徒ヨハネの書たのではなく第二世紀に於て或無名の著者の手に成つたるのであると云ふ説もある。夫れ故に我等は只馬太傳だけに據ることに爲やう。馬太傳に就いてはレナンの如き學者も左の如く論じて居る。馬太傳に記載せるイエスの言語に付ては毫も疑ふべき理由がない。マタイは明瞭にして且つ愛心に滿ちたる記憶よりイエスの教訓を記錄したのであると論じて居る。然らば馬太傳に據ればイエスは自己に付て何と云ひ給ふたか。馬太傳に據れば彼は諸預言者よりも大なる者、聖殿よりも大なる者、安息日よりも大なる者であると主張し、弟子

に向つては父母を愛するよりも、子女を愛するよりも尚優りて我を愛すべしと命じ、我命に背く者の罰はソドムゴモラの罰よりも恐ろしからんと預言し、わが名の爲に罵詈せられ迫害せらるる者は福であると宣言し、わが名の爲に冷水一杯でも人に與ふものは未來永遠に至るまで決して忘れられないと約束し給ふた。

又キリストは人の罪を赦し、若しソドムの邑も我が教を聽たならば早く既に麻を衣、灰を蒙つて其罪を悔改めたであらうと明言し給ふた。心の痛める者の爲には慰籍者であり、重荷を負へる者の爲には之に代つて荷を負ふ者となり、束縛せられて居る者の爲には自由を與ふる者となり、天下萬

民の爲に救主であると斷言し給ふた。又子の外に父を知るものなく、父の外に子を知るものは無いと云つて自分の外に眞に神を識るものなく、又神の外に眞に自分を識るものは無いと明言し給ふた。

イエスも終には世を去るべき時がある。けれども必らず再び世に來る時がある。そうして其時には榮光を以て來り、榮光の位に坐して天下萬民を審判し各人の運命を永遠に定め給ふと書てある。此等は馬太傳に記載せられたイエスの言語の數例に過ぎない。此の如き語は澤山にあるが今は只一の他の例を擧げて濟さう。それは外の事ではない。終にイエスを十字架の極刑に定むる理由となつた所の自白の語で

ある。イエスは今正しくユダヤ國の高等裁判所の前に立ち給ふた。そうして此裁判の勝敗は只その返答一つで定る場合である。祭司長は立つて言つた、汝はキリスト神の子なるか。我汝を活る神に誓はしめて之を告げしめん。イエスは彼に答へて、汝が言へる如し、且我汝に告げん、此後人の子大權の右に坐し天の雲に乗りて來るを汝等見るべしと言ひ給ふた。是に於て祭司長はその衣を裂いて言つた、彼既に神の聖名を瀆したり、何ぞ外に證據を求めんやと。然れども之に對してイエスは默然として何の答辨も爲し給はなかつた。我等は今此福音書に記載してある所が悉皆精確であるといふ事を主張しはせぬ。只マタイは、此傳を記す時に己の目

擊した所の事を正直に記錄したと信ずる丈で、澤山である。此書に記載してある奇跡の幾分又は多分は後世追加せられた訛傳であると假定しても差支ない。我等は只イエスの言語だけを證據と爲すのであるが其言語の眞實なる事に就ては誰も異論はあるまい、且又、此福音書に記載する所は約翰傳福音や使徒の書翰程に明瞭詳細でないといふ事も認めて居る。然れどもイエスはあるといふ事即ち他の人に就ては云ふことの出來ない意味に於て又使徒等の書翰の教訓及び古來教會の大信條と全く和合一致する意味に於て神の子であるといふ事を說き給ふたに相違ない。然らば此等の言語教訓を如何に

説明すべきであらうか。キリストの教會は常に此等の言語教訓は眞であると答へた。然し萬一眞でない時には如何であらう。其時には二つの解答の中孰れか一つを取らねばならぬ。其二つの解答といふのはイエスの御在世中から或人の唱へたる説である。

其頃或反對者は言ふた。イエスは狂人である。彼は惡鬼に憑れたものである。發狂人である。汝等は何故に彼に聞かんとするかと。

然しどうであらう。苟くも虛心平氣な人が此の如き説に服するであらうか。イエスキリストは果てて發狂人であつたと思ふことが出來やうか。昔日はいざ知らず。今日に於ては誰も此の如き説を眞に受ける者は無からう。それ故に是は論ずるまでも無い臆説である。若しもキリストの精神が明瞭正確健全靜謐でなく、物の眞僞を識別することが出來なかつたとすれば恐くは天下に一人も健全明瞭な精神ある者は無いと言はねばなるまい。若しもイエスキリストが狂教者であるならば狂教とは溫容柔和智慧公義眞實慈愛の事であると申さねばならぬ。否、イエスキリストは決して發狂人ではない。

今一つの解答は祭司長カヤバの解答である、即はちイエスは自ら欺いたのでは無く、世を欺いた者である、瞞着家であるといふ説であるが、事實如何であらう。此假定に由つてイ

エスが自身に就いて言ひ給ふたことを能く解釋せられやうか。果して如何であらうか。

彼の山上の垂訓なる者はイエスの說敎であるが、誰か曾つて此の如き道德を說き且つ之を實行した者があらうか。其道德は人の言行思想を貫徹して心の奧底に達して居る。且つイエスの行爲も亦その敎訓の如くであつて誰もその欠點を見出し得る者はなく、誰あつて其罪を定め得る者は無かつた。イエスは亦他人の眼中に在つて一點の瑕瑾が無いのみでなく、自身の光明正大なる良心に於ても一の欠點も無かつたのである。是は實に不思議なる事柄である。イエスは屢々他人の罪惡を赦し給ふた。けれども一次も自ら罪の赦を祈り給ふたことがない。イエスは遙かにエルサレムを望み見てその爲に涙を流し給ふた。けれども一次も自ら慚愧の涙を流し給ふたことがない。イエスは屢々他人に向つて悔改を命じ給ふた。けれども一次も自己の言語も、行爲も、思想も悔改め給ふたことがない。イエスは何時も神の旨に適ふ事を行し給ふた、然かもその心は柔和謙遜であつた。

或人はイエスに就いて左の如く評した。イエスは他に比類なき人物であつて、幾万年の後と雖も彼に超越する人は出ぬであらう。反つて彼の崇拜は年とゝもに增加はり彼の苦難は常に最も高尙なる人物の心を滿足せしめ而して遂には天下万民異口同音に人の子の中にナザレのイエスより

大なる者なしと宣言するに至るであらう。

又或人はイエスは大人中の最も聖なる者にして聖人中の最も大なる者である。彼は其穿かれたる双手を以て諸大帝國を顚倒し、歴史の潮流をして其方向を一轉せしめ、而して今尙世界の大勢を統轄指導しつゝあると云つた。

此の如く何人が見てもイエスは理想的の人物であるといふ一事は異論ない所であらうと思ふ。如何なる聖人が出て來ても其足跡を踏んで往くより外のことは出來ない。然らばカヤバの解答は誤謬である。イエスは決して自ら欺いた者でもなく、又人を欺いた者でもないのである。神人と成給ふといふことは如何にも大なる不思議であるけれども必

らずしも非理では無い。神の子、人の子といふことは東西と云ひ有無といふ如き反對の性質の事ではない。永遠と時間、宇宙と微分子、無限と有限此等のものが相接觸し、相關係し、相合することがあると申しても必らずしも吾人の理性に反することでもない。然れども眞理の王たる者が己を信ずる者を欺くと云ふは猛火が氷結し、光明が暗黑であり、眞が僞りであると云ふと同一である。果して然らばイエスは神の子であり、又惡魔の子であると云はねばならぬ理窟である。イエスは自ら保證を爲給ふた。けれども其敵にも告げられた如く、縱令我自ら證を立るとも我が證は眞なり如何となれば我は何處より來り何處へ往くを知ればなりと仰せ

られた。

然しながら此事は私の一身に取つて何の關係があるか。人の子たるイエスが一種特別の意味に於て亦神の子であると無いとは私の一身に取つて何の相違があるかと問ふ人があるかも知れぬ。

此問題の如何に由つては種々の事があるが、餘の事は姑らく措置いても、少くとも此大なる相違が生ずる。即ち吾人は皆神の前に立つて居る者である。又永遠不窮に立ねばならぬ者である。吾人は如何なる場合に於ても、何時迄立つても、神との關係を離れることは出來ぬ。然れば神は如何あるものぞとの問題は現世に於ても、來世に於ても、我等各人に

取りて最大至要の問題である。此問題の解ぬ間は人の一生は大なる謎語であり、その死は暗黒界に入るの門戸に過ぎない。成程神は往古預言者によつて先祖に語り給ふたけれども今はその御子に由つて語り給ふのである。而して吾人の心がナザレのイエスは即ち肉體に現はれ給へる神であるといふことを自覺する時には自から其心の中に新しい光明が入込んで來る。それは平和と希望と歡喜と確信の光明である。實に生命と不壞とはキリストの福音に由つて始めて明かになつた。そうして此光明を受けた靈魂は願くは我儕に父を顯はし給へと呼ぶ樣なことはせぬ、何なれば我を見し者は父を見しなりとのイエスの語を自ら繰返す

やうになる。

此の如き靈魂も神の道を疑はんと欲する時が來るかも知れない。若しや神は天空の鳥を顧みることを忘れ給ふたのではなからうかと怪むことがあるかも知れぬ。然れども此の如き時に於てもキリストに於て神を知つた者は靜かな小さき聲が己の心に左の如く耳語を聞くであらう。我は即はちナザレのイエスに於て人間に寓つた者である。我は即はち彼に於て世界を和睦がせた者である。我は即はち彼に於て、凡て勞れたる者と重荷を負へる者は我に來れと云つた者である。我は昨日も今日も永遠も變ることが無い故に汝安心せよといふ聲を聞くであらう。

使徒パウロは此實驗を美はしく言著はした。彼も曾てキリストに於て神を見ることの出來ない時代があつた。そうして彼れ自から其時代を追想して見れば全く暗黑の時代であつた。その暗黑は天地創造の時に渾沌の上を覆ふたる暗黑の如くであつた。然るに不意に變動が來た。その有樣は光に命じて暗より照出しめたる神が我をしてイエスキリストの面にある神の榮光を知るの光を顯はさしめん爲に我が心を照し給ふたと申した通であつた。

願くは我等の心の中にもその光明が放たれ增す輝いて遂に正午の光明に達するやうに致度ものである。是れ即はち神の肖像たるキリストの榮光の福音である、

明治卅五年三月十九日印刷
明治卅五年三月廿五日發行

著者兼發行者　東京市芝區白金今里町明治學院內　ウ井リヤム、インブリー

印刷者　横濱市太田町五丁目八十七番地　村岡平吉

發行所　東京市京橋區明石町十七番地　基督教書類會社

印刷所　横濱市山下町八十一番地　福音印刷合資會社

願くは主イエス・キリストの恩と神の愛と
聖霊の交際汝等衆てさゝもに在らんことを